

## 働きながら芸術活動

# 酪農アーティスト活躍

【大樹】町内の酪農場で働きながら芸術活動に取り組む「酪農アーティスト」2人の活躍の場が広がっている。佐川麻代さん(30)は絵画教室、下山明花さん(24)はポストカード販売と新たな活動に着手。雇用は当初の酪農ヘルパーから個別の牧場の従業員へと変わり、芸術分野の比重を高めて、収入確保、定住を目指す。



## 大樹 絵画教室や販売活動



「酪農アーティスト」は、町が2016年から若手芸術家を酪農の担い手として受け入れ、移住定住につながる事業を、国の地方創生交付金を活用して開始。事業を活用して佐川さんは今年9月、下山さんは昨年3月に町に移住した。愛知県出身で現代アートを制作する佐川さんは、7月から自身が主催し、町内の施設で週2回、絵画教室を開く。町教委が2月に佐川さんを講師に招いて開いた絵画教室が好評で、町民が自主企画した静岡アッサン教室でも5〜6月まで全5回講師を務めている。アッサン教室は中学1年生から79歳まで、町内外から

定員15人を上回る25人が受講。「学校に美術部がない」「美術を学びたいが機会がない」といった受講者が集まった。アッサン教室終了後も続けて受講したいとの声があり、7月からの絵画教室につながった。高校での非常勤講師の経験もある佐川さんは「描けば描くほど皆さん上達している。教えるのが楽しい」と手応えを感じる。版画制作に取り組む下山さんは、5月から道の駅コスモール大樹で、手描きと印刷のポストカードを販売している。美術作品は比較的高値のため、気軽に手に取ってもらうのが目的。大樹の酪農風景や宇宙をモチーフにした作品もあり、手描きの1点物は当初用意した11枚が売り切れ、何度も追加納品した。事業を担当する町企画商工課の藤谷満伸企画係長は「自身で企画して作品をPRしていて、頼もしい。安定した収入確保につながれば」と期待する。当初の町の事業では、多くの牧場を回る酪農ヘルパーとしての雇用だったが、高い専門性が求められ、芸

術活動との両立が難しくなった。現在は2人を支援しようとする町内の2牧場がそれぞれ、パート従業員として雇用する形に変わった。佐川さんが芸術活動との両立に悩んでいた昨年、「J-PrO コントラクトファーム」(町石坂)の山下展子取締役(50)は、知人を介して知り合った。山下さんは「もともと芸術に興味があり、私たちの牧場を基盤に活躍を広がってほしい」と、柔軟な雇用形態で受け入れた。佐川さんも「思いを共有して応援していただいていた」と感謝する。時間に余裕ができて、「イラストや講師、イベントでのライブペインティング(即興で絵を描くパフォーマンス)の依頼も受けられるようになった」という。パートとなつて収入は減つたものの、「方向性が見えてきた」と、酪農を支える芸術での躍進を目指すとしている。(真尾敦)

裕ができ、「イラストや講師、イベントでのライブペインティング(即興で絵を描くパフォーマンス)の依頼も受けられるようになった」という。パートとなつて収入は減つたものの、「方向性が見えてきた」と、酪農を支える芸術での躍進を目指すとしている。(真尾敦)